

当院回復期病棟の予測FIMについて

～FIMの正確性向上への取り組みと今後の課題～

医療法人 鶴林会 桂林病院
リハビリテーション部
作業療法士 香月 悠杜

【はじめに】

H28診療報酬改定でアウトカム導入以降の
当院の回りハ病棟では他職種による入棟時FIM評価
と健康状態・心身機能状態を評価する



一週間以内に最終FIMの予測を立てる

【目的】

FIMの正確性の向上と今後の課題を探るため



当院でのアウトカム導入から現在までの
退棟時FIMと予測FIMの乖離を分析した

【方法】

◎期間：H30.10～R1.6、R3.10～R4.6の異なる時期

◎対象：当院回りハ病棟を退院した71名
(アウトカム対象外とした者は除く)

◎①予測FIMと退棟時FIMの差

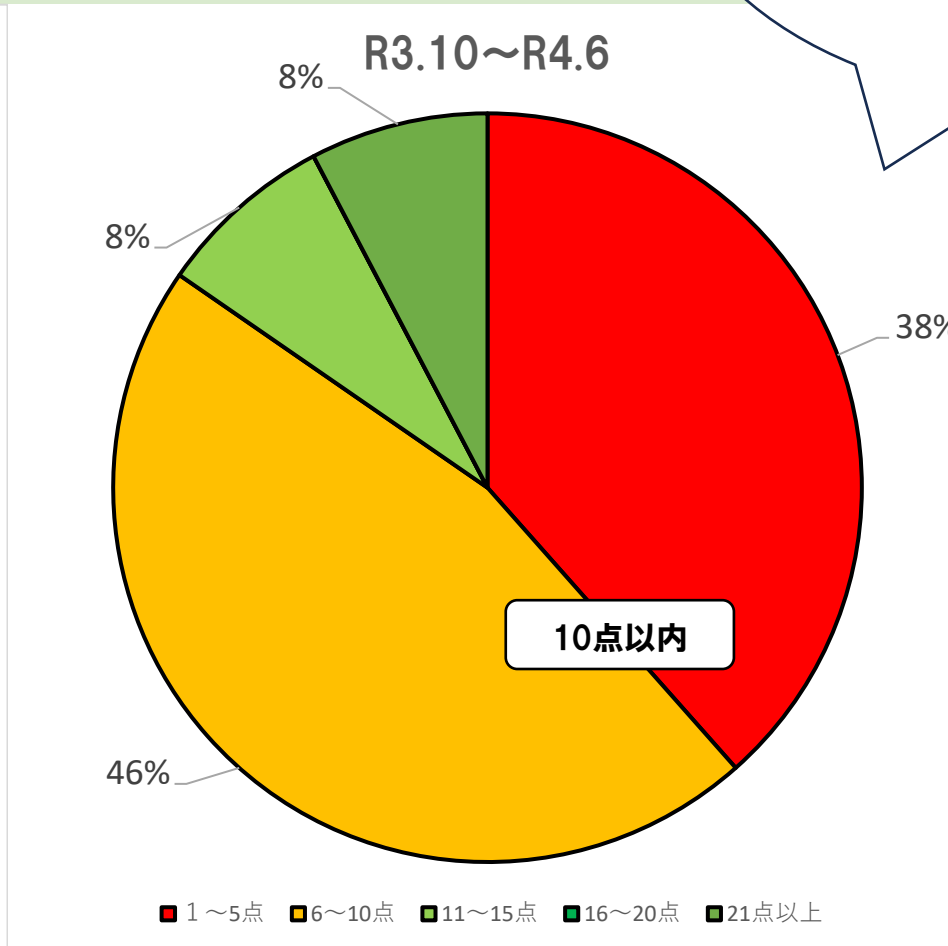
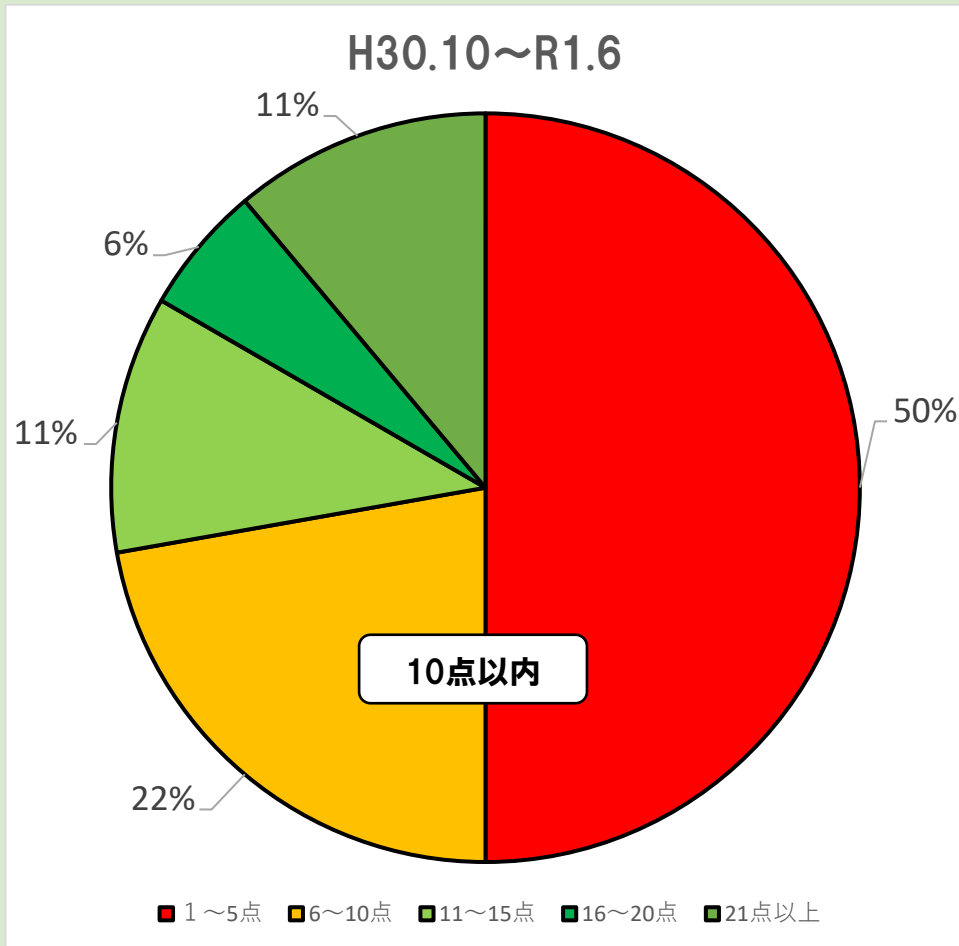
◎②予測FIMと退棟時FIMの各項目の差

① 予測FIMと退棟時FIMの差

【結果】

◎ 予測FIMより上がった群

R3.10~R4.6の
期間のFIMの乖離
が10点以内の者
が増加傾向



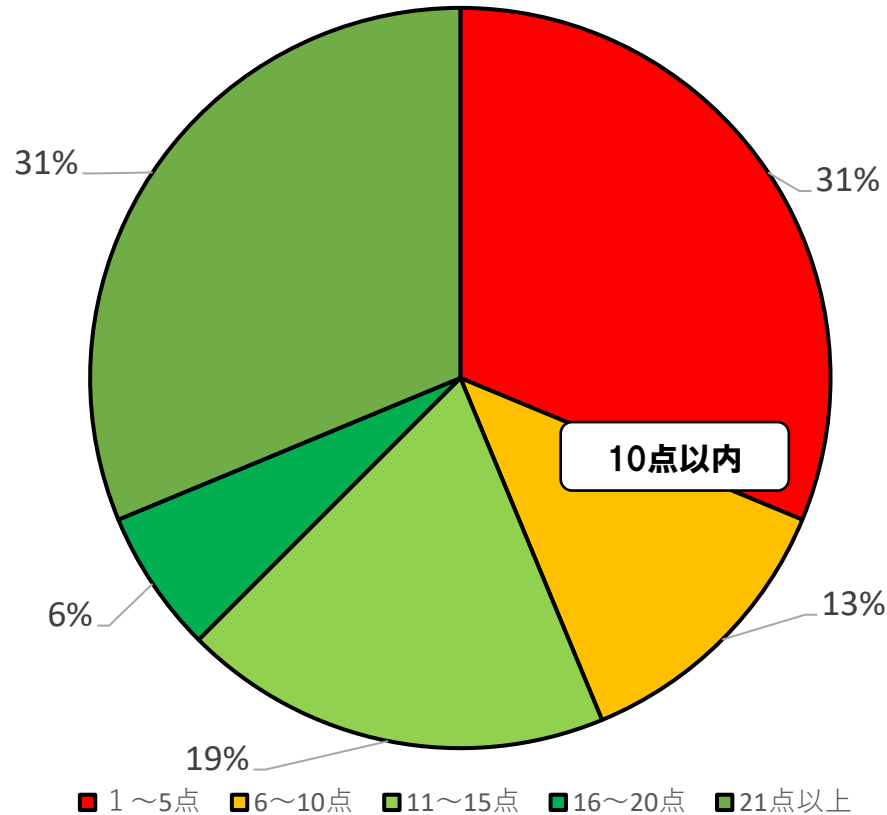
① 予測FIMと退棟時FIMの差

【結果】

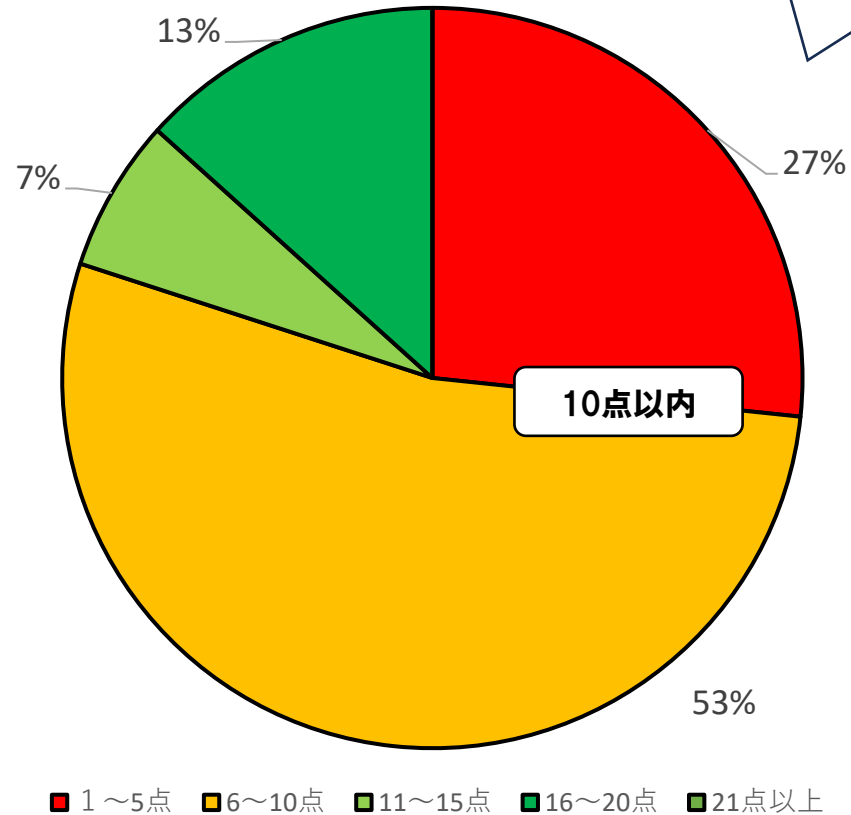
◎ 予測FIMより下がった群

R3.10~R4.6の
期間のFIMの乖離
が10点以内の者
が増加傾向

H30.10~R1.6



R3.10~R4.6



10点以内

①予測FIMと退棟時FIMの差

【考察】

要因1. 毎月定期的に行うFIM勉強会

要因2. FIM評価を月に2回定期的に行う

要因3. 軒下カンファレンスでFIMを用いる

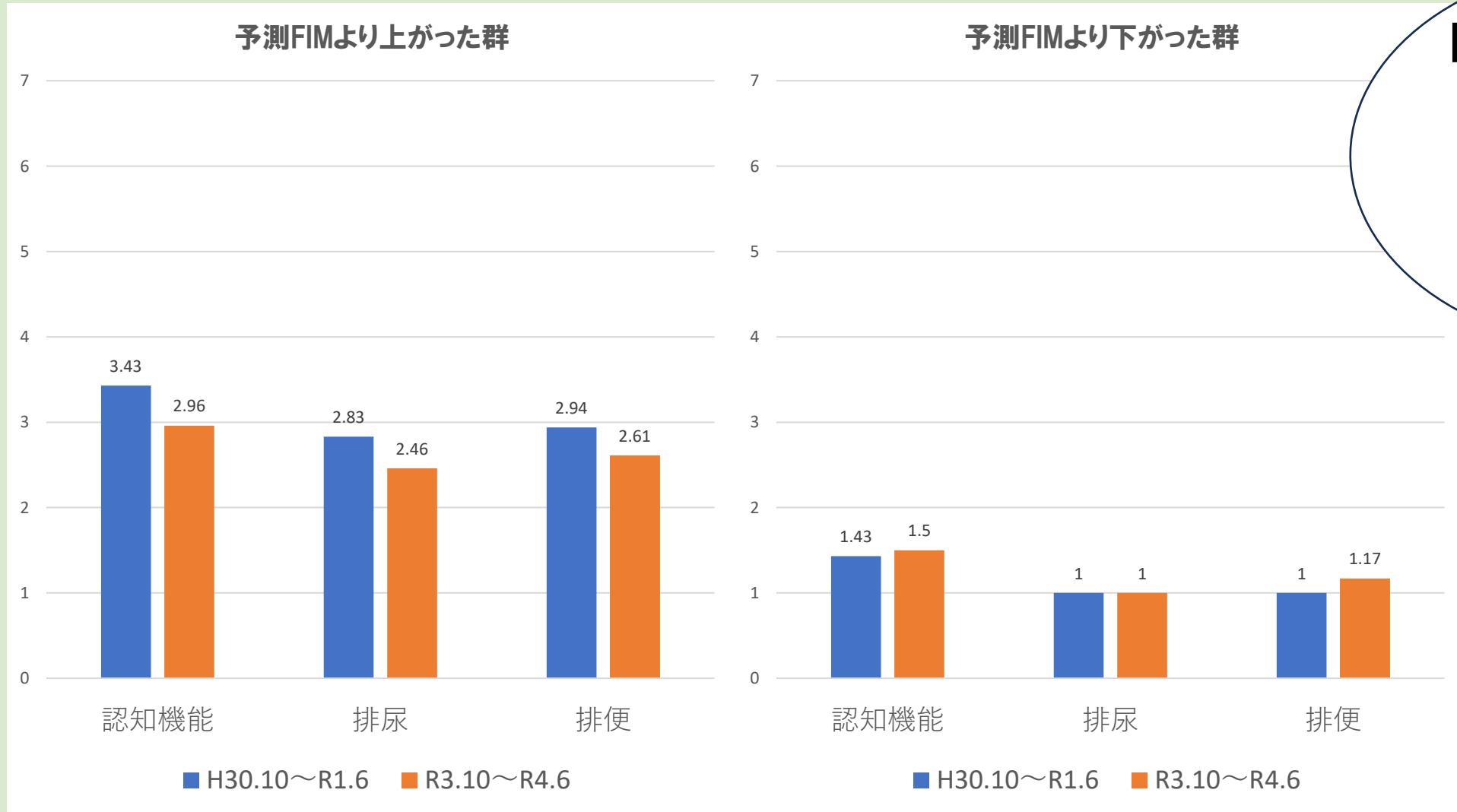


時間が経つにつれ、精度が高く、

より現実的な予測FIMを立てることが可能に

② 予測FIMと退棟時FIMの各項目の差

【結果】



FIM項目の平均の
差のなかで
顕著に乖離が
出現した項目を
ピックアップした

②予測FIMと退棟時FIMの各項目の差

【考察】

- ◎予測FIMより下がった群と比較し、上がった群のほうが認知機能、排尿・排便でのFIMの改善を認める傾向にある。
- ◎認知機能の改善を認めた者は同時に排尿・排便でもFIMの改善する傾向にある。



認知機能と排泄コントロールは相互に影響する

②予測FIMと退棟時FIMの各項目の差

【考察】

◎両期間ともに認知機能と排泄コントロールがFIMの乖離に影響を与えている。



◎当院では認知症を呈する患者に対して、トイレの時間誘導を早期から実施するなど排泄への意識づけを行っている。
道免ら¹⁾はFIMの運動項目と認知項目は中等度の相関を認め、FIM運動項目はある程度認知機能に影響を受け、認知機能が高いと運動機能も改善しやすいと示唆。

1) 脳卒中 機能評価・予後予測マニュアル

【まとめ】

- ◎毎月実施するFIM勉強会、月2回行うFIM評価によって経時的にFIM評価の正確性は向上しており、今後も継続していくことが重要。**
- ◎当院の入院患者は平均年齢が高く、認知症を呈す患者も多いため、今後FIMの改善には認知機能賦活訓練や排泄コントロールに対する知識を深め、取り組みを充実させることが大切である。**